



# 毎日、塾生全員を直接個別指導したかった

インタビューで紐解く 自立型個別学習の大きな強み

G-PAPILS 大学病院前校

教室長 **佐々木 陵太**

木町通小・仙台二中から仙台二高、東北大学教育学部卒  
家庭教師・個別指導講師・集団指導講師として  
小・中・高校指導に挑んで15年  
2015年度には、一・二・三・宮一・二華・向山・南に25名を輩出  
2017年度も、二高・宮一・三高・館山高受験者100%合格  
生徒一人ひとりの個性に合わせつつ、強いリーダーシップで牽引する

## 集団・個別のジレンマ

―集団型のあすなろ学院から、自立型個別指導 G-PAPILS に業態変更した理由は？

自身、長年に渡り集団・個別指導に携わり、毎年試行錯誤を続ける中で、どうしても解決しきれないジレンマを感じていました。

―それはなんですか

集団指導は、レベル別指導をするためにクラス分けが前提です。しかし、クラス分けをすると、当然全てのクラスを担当することができません。講師同士のチームプレーで解決できる部分もあるのですが、それでもやはり、もどかしさを感じるが多々ありました。

―個別指導のときはどうでしたか

個別指導は集団指導以上に、直接見ることができる子どもたちの数が少なくなります。さらに、教室を運営する立場としては、お預かりする子どもたちの人数に比例して、講師の協力が必要になるのですが、指導の質を担保するのが本当に大変です。G-PAPILS では、授業で使う部屋は一つ。学年混在の定員制です。毎日直接子どもたちを指導することができる点、ここが一番の魅力でした。また、プロ中のプロによる授業動画を使っているので、指導の質にも絶対の自信が持てました。

## 人に伝えられなければ理解できていない

―授業はどのように進みますか

定期テスト対策に絞ってお話しますね。まず、5分前後の動画で、新しい知識や技術をインプットします。その後、10分ほどの問題演習を行います。丸つけをして、間違えた問題は必要に応じて解説動画を受講します。その後、先生にチェックしてもらいます。間違えた問題や、先生が「怪しい!」と思った問題は、きちんと理解ができているか確かめるために、子どもたちに説明してもらいます。これを繰り返していきます。



先生と生徒の対話から深い理解が生まれる

―説明をするのって難しいですよね

そうなんです。きちんと体系的に理解できていないと、説明するのは難しいのです。実は、個別指導や集団指導でも、同様の取り組みをしたことがあります。しかし、あることがネックとなって、なかなか実施することができないのが実情でした。

## “指導時間”という壁

―何がネックでしょう

それは指導時間です。集団指導も個別指導も、120分とか80分という指導時間の限界があります。その中で、先生は生徒にティーチング指導をしなければなりません。集団指導なら、子どもたちが本当に分かっているかを測るには、発問を行うかペーパーテストを行います。前者はサンプル調査に過ぎず、後者は一人ひとり間違えるところが異なるので、個別に対応することができません。対応しようとすれば、全体の授業がストップします。個別指導は、集団指導よりも授業時間が少ないのが普通です。間違えたものを一つひとつ潰していきたいのは山々ですが、それをするに進度が著しく遅くなりかねません。

―“受講し放題”だから可能なんですね

はい。ティーチングの大部分が動画で完結するという点も見逃せません。



熟練講師による授業が受講し放題

## 宿題をきちんと見てあげられる

―宿題はどうですか

間違い直しノートを作ります。何がだめで、どうしなければいけないのかをきちんとまとめることで、量や時間に頼りすぎない学習ができます。また、宿題プリントは、1人ひとり人工知能が状況を分析して、それぞれに最適な問題を抽出してくれます。

―一番大切にしていることは

子どもたちとの会話です。とにかく子どもたちがたくさん話せること。私たちは子どもたちの話を傾聴し、それぞれに合った声かけ、励ましを行います。子どもたちとの会話量もどこにも負けないという自負があります。



多くの会話が生まれるのは生徒との信頼関係が強い証



学年の枠を超えた学び合いも生まれる